

8月21日（火） 平成30年度 第一回「企業向け研修会」を開催しました。

この研修は、現在障がい者雇用をすすめている企業と、これから障がい者雇用を検討している企業の方々向けに、共に学び合い情報を共有することを目的に企画しました。当日はおよそ40名の方に参加いただき、企業の方の障がい者雇用に対する熱意を感じた研修となりました。

今回は、企業の方に向けたアンケートの意見を参考に「精神・発達障がいの理解と雇用におけるリスク管理」をテーマに研修会を行いました。



講義では、北海道障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー岡田麗子氏をお招きし、障がい者雇用の現状や雇用事例についてお話を頂きました。それぞれの障がい特性からくる職場での課題の違いやその原因・行動の特徴の説明と、働く中で起きてくる問題点や環境の中での配慮などについても説明頂きました。

職場内での対応のコツとして①気づく ②傾聴する ③正しい知識を得る ④上司やほかの同僚との連携の4つがあげられ、障がい者として特別な存在と考える前に1人の社員として雇用することが必要であり、障がい者だからという「過度な特別な配慮は不要」ということをお伝え頂きました。また、職場定着のためには、ご本人や職場だけではなくご家族や関係機関の支える体制が不可欠であるという話がされました。生活の状況や健康面・心理面での問題解決は職場のみでは解決能力を超える場合が多く、ご本人、職場、ご家族や関係機関が信頼関係のもと、気軽に連絡をとりあい、知恵を出し合って対策を立てて、解決を目指すことが大切ということもお話しがありました。

講義を受けた方からは、「精神障がい・発達障がいの方だから特別な考えをしなくても大丈夫なんだ」「本人からどのような困り感が出ているのかを知ろうとすることが大切」などの意見がありました。今回の講義を聞いて参加者の中から障がい者雇用は難しいことではないと言う意見も多く出ていました。

後半には岡田氏が実際に対応した事例を取り上げ、その事例をもとに課題となる出来事に対する原因と対応策を考えるグループワークを行いました。各グループでは、企業での取り組みを参考に活発な議論がされていました。本人の困り感に対する検討に加え、雇用を進めていくうえでのキャリアアップをどのように考えていくかなどの内容まで話が進められていました。



岡田氏からのまとめでは、行動の読み取り方次第で対応に影響が出てしまう問題と、ご本人が自分のキャリアに対する気持ちに強く葛藤をしているということをあげて頂きました。

今後も企業向け研修会を行い、企業間で相談できる環境作りや、企業の取り組みを共有出来るネットワーク構築を行って行きたいと思っています。また、企業の方の困り感や手立てについても今後も一緒に対応していきたいと思っています。